

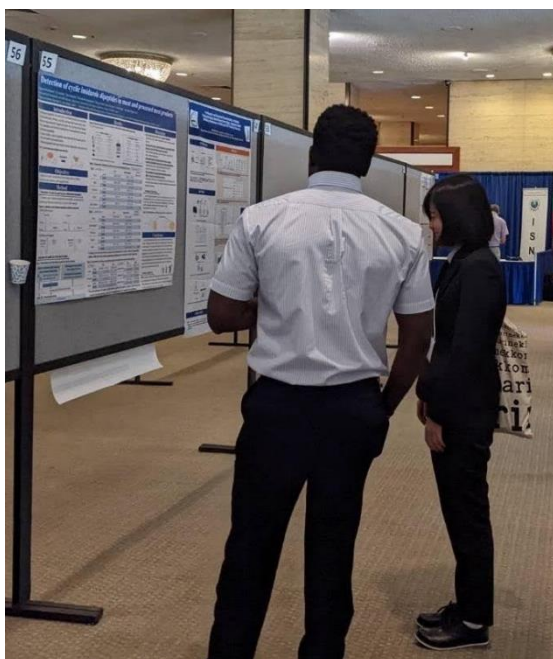
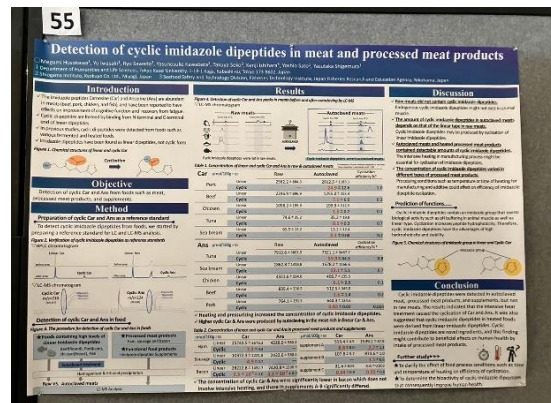
Dream Plan

令和5年度ドリームプラン

「国際学会で発表に挑戦！」

家政学部栄養学科 4年
H.M

私は、今年度ドリームプラン奨学金で採択していただいた費用を使い、国際学会での学会発表を行いました。学会は、米国ハワイ州にて12月10日から13日までの4日間で開催された、第15回 International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF) です。ISNFFは食品機能の分野では、最も大きい国際的な学会です。21の国から研究者や学生が参加し、114の口頭発表と76のポスター発表がありました。食品機能とは、食品成分による健康維持や健康増進作用のことを指し、サプリメントや健康食品の成分に関して研究が進められている分野です。私は学部3年次から研究室で様々な食品に含まれる機能性成分に関する研究を行い、その研究成果の1つをポスター発表しました。



ポスター発表とは、自分の研究をA0サイズのポスター1枚にまとめ、学会参加者の方に研究内容を説明する発表形式です。一般的に学会発表というと、限られた時間で発表と質疑を壇上で行う口頭形式ですが、このポスター発表はそこまで時間の制限がなく、1対1で会話をしながら研究内容を説明する形式です。これまで国内では、口頭発表やポスター発表を行ってききましたが、常に自分の研究発表に対して興味を持ってもらえるように、そして研究分野外の方にも内容をわかりやすく説明をするように心掛けてきました。今回の国際学会では、日本語ではあいまいに説明していた表現が、英語ではより明確な表現

を求められることが多く、これまでに日本語でも科学的方法や結果を正確に表現できてい

ないことに気づかされました。母国語が英語でない方ともコミュニケーションをとることで、【正確に伝える】ことの重要性に気づくことができ、表現と相手の視点の多様性を実感しました。研究内容の説明や、研究に関する質問は英語で行われるため、私にとって英語でコミュニケーションをとることもハードルでした。その対策として、学会発表の前に、東京家政大学の English Lounge でネイティブの先生に発音や英語ならではの文章全体の強調する部分、問のとり方をご指導いただきました。この経験が英語でコミュニケーションをとる自信につながり、発表本番でも積極的に海外の研究者の先生や学生に話しかけることができました。

私の発表内容は、企業と共同研究を実施しているイミダゾールジペプチドについてです。イミダゾールジペプチドは、食品やサプリメントに含まれる成分で、特に動物の筋肉に多く含まれる成分、そして認知機能や疲労の改善に効果がわかっています。私たちはこのイミダゾールジペプチドの中で、一部構造変化したものを見つけており、これがどのような食品に多く、どのような加工過程で増えるのか？などを調べました。他の大学や企業が見つけていない構造の成分であるため、国際学会で公表する意義があると考えて今回の発表に至りました。

学会では、いくつかの口頭発表とポスター発表を拝聴しました。各国で食事内容によって病気を抑制しようとしたり、未利用の食品を減らすことを目指したりしているのだとわかり、食と健康への関心がさらに高まりました。また、他大学の学生のポスターの発表を拝聴したとき、自分の英語力や研究内容の知見の狭さから、研究の全体を深く理解することができませんでした。自分の研究発表だけでなく、他の人の発表や方法も十分に得ることができるよう、英語のスキルと研究に対する知識を深めていきたいと感じました。多くの論文を読み、自身が扱う研究分野のほかの分野に関する知見を広めたいと思います。食品機能学研究室の先輩が同じ学会で口頭発表されており、私もそのあとに続き、後輩の手本になるような先輩を目指してまいります。

学会開催時間以外は、現地のスーパーマーケットなどでどのような食品が現地で流通しているか？などを観察し、日本との異なるトレンドや流通や経済的に異なる背景などをそれら食品から探ることができました。

今回の経験は、本学の大学院進学後の研究にも発展させて自分の研究力を向上し、他大学と競っていきたいと考えています。この発表経験はドリームプラン奨学金のおかげで実現し、他では経験できない大きな挑戦をすることができました。本活動にご支援くださいました、東京家政大学後援会の皆さまに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

